

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-63632

(43) 公開日 平成5年(1993)3月12日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 B 7/26	1 0 3 L	7304-5K		
H 0 4 L 29/06		8020-5K		
17/02		8020-5K	H 0 4 L 13/00	3 0 5 C

審査請求 未請求 請求項の数3(全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-217678

(22) 出願日 平成3年(1991)8月29日

(71) 出願人 000232254

日本電気通信システム株式会社
東京都港区三田1丁目4番28号

(72) 発明者 阿部 孝

東京都港区三田一丁目4番28号日本電気通
信システム株式会社内

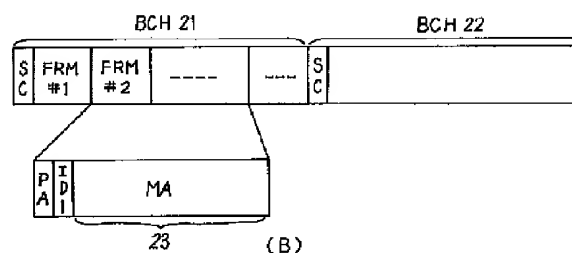
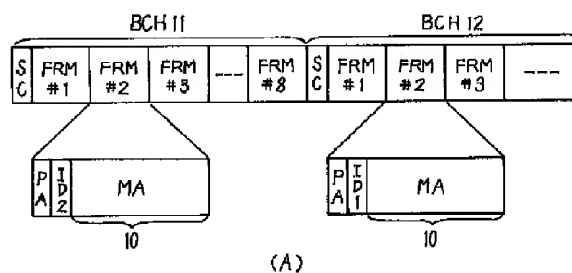
(74) 代理人 弁理士 内原 晋

(54) 【発明の名称】 ページャーメッセージ分割送信方式

(57) 【要約】

【目的】 ページャーに送信するメッセージを分割して送信することにより、従来よりも多量のメッセージと呼を処理できるようにする。

【構成】 図1 (A) のように、送信するメッセージ長が FRM # 2 の長さを超えている場合、MA の前または後に ID 2 を付加し、そのフレームの長さに応じてメッセージを分割して次々と送信する。そして、最後に送信する分割されたメッセージには、MA の前または後に ID 1 を付加して送信する。また、図1 (B) に示すように、割り当てられた FRM # 2 の次の FRM # 3 以降が空きの場合か、1つの分割単位を複数のフレーム分とする場合は、メッセージをそれに見合った長さに分割して ID 1 または ID 2 を付加して送信する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ページャーへ送信するページャーメッセージの長さが呼に割り当てられた1フレームの長さを超えたとき前記ページャーメッセージの分割を任意の長さで可変して送信する送信制御手段を備えることを特徴とするページャーメッセージ分割送信方式。

【請求項2】 前記送信制御手段は前記ページャーメッセージを分割して異なる複数のパッチの同一番号のフレームを使用し、最後の前記フレームにはメッセージエリアに継続フレーム無しを示す第1の識別子を付加し且つ前記最後のフレーム以外のフレームにはメッセージエリアに継続フレーム有りを示す第2の識別子を付加して送信することを特徴とする請求項1記載のページャーメッセージ分割送信方式。

【請求項3】 前記送信制御手段は前記ページャーメッセージを分割して同一パッチの隣接する空きのフレームを使用し、最後の前記フレームにはメッセージエリアに継続フレーム無しを示す第1の識別子を付加して送信することを特徴とする請求項1記載のページャーメッセージ分割送信方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はページングシステムにおけるページャーメッセージ分割送信方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 図2は従来のページャーメッセージ送信方式における送信ページャーメッセージの信号フォーマットの一例を示す図である。1つの呼に対するフレームの位置は、8つのフレーム（以下FRM#1～#8）で構成されるパッチ（以下BCH）31のフレーム#2のように固定的に割り当てられており、送信しようとするメッセージ長が予め呼に割り当てられた1つのフレームの長さを超えている場合には、BCH32のメッセージエリア（以下MA）30のようにFRM#2に隣接したFRM#3以降に割り込んで送信するようになっていた。さらに、メッセージが1つのBCH32で入りきらないときは、次の隣接したBCH33に割り込んで送信するようになっていた。なお図2においてSCは同期コードワード、PAはページャーアドレスを示す。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この従来のメッセージ送信方式では、1つの呼で送信しようとするメッセージ長が長くなればなるほど、多くのフレームを独占してしまうことになり、他の呼が受け付けられなくなる可能性があるという欠点がある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明のページャーメッセージ分割送信方式は、ページャーへ送信するページャーメッセージの長さが呼に割り当てられた1フレームの長さを超えたとき前記ページャーメッセージの分割を任

意の長さで可変して送信する送信制御手段を備えている。

【0005】そして、前記送信制御手段は前記ページャーメッセージを分割して異なる複数のパッチの同一番号のフレームを使用し、最後の前記フレームにはメッセージエリアに継続フレーム無しを示す第1の識別子を付加し且つ前記最後のフレーム以外のフレームにはメッセージエリアに継続フレーム有りを示す第2の識別子を付加して送信するか、または前記ページャーメッセージを分割して同一パッチの隣接する空きのフレームを使用し、最後の前記フレームにはメッセージエリアに継続フレーム無しを示す第1の識別子を付加して送信する。

【0006】

【実施例】次に、本発明について図面を参照して説明する。図1（A）、（B）は本発明のページャーメッセージの分割送信方式の第1、第2の実施例における送信ページャーメッセージの信号フォーマットを示す図である。

【0007】次に本実施例の動作について説明する。第1の実施例の送信制御部は図1（A）に示すように、送信しようとするメッセージ長が1つのFRM#2の長さを超えた場合に、BCH11のFRM#2におけるMA10の先頭部（最後尾でもよい）に継続フレーム有りを示す識別子（以下ID2）を付加し、ページャーメッセージをFRM#2の長さに分割して次々と送信する。従って、ページャーメッセージがBCH11とBCH12のFRM#2に入る長さであれば、BCH12のFRM#2のMA10の先頭部または最後尾に継続フレーム無しを示す識別子（以下ID1）を付加して送信する。

【0008】第2の実施例の送信制御部は図1（B）に示すように、BCH21のFRM#2の隣接FRM#3以降が他の呼で使われず空きである場合、またはページャーメッセージを一度に2フレーム分の長さを超えて送信したい場合に、送信しようとするページャーメッセージを2つ以上の任意のフレームの長さで分割し、第1の実施例と同様にMA23の先頭部または最後尾にID1を付加して送信する。

【0009】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、フレーム内のメッセージエリアの最前部又は最後部に識別子を付加することにより、他の呼に影響を与えずに任意の長さのメッセージが送信できるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】（A）、（B）は本発明のページャーメッセージ分割送信方式の第1、第2の実施例における送信ページャーメッセージの信号フォーマットを示す図である。

【図2】従来のページャーメッセージ送信方式における送信ページャーメッセージの信号フォーマットの一例を示す図である。

【符号の説明】

³
 10, 23, 30 メッセージエリア (MA)
 11, 12, 21, 22, 31, 32, 33 パッチ
 (BCH)
 FRM#1, ~#3 フレーム

⁴
 ID1, ID2 識別子
 PA ページャーアドレス
 SC 同期コードワード

【図1】

【図2】

